

# 第 3 回 学生震災意識調査

創価学会 東北学生部

# 調査概要

- ◆調査手法：対面・留置式
- ◆調査期間：2013年12月1日～  
2014年2月16日
- ◆調査対象条件：東北地方及び首都圏（1都3県）の  
大学生、専門学校生
- ◆調査設計：  
アンケート回収数：1905枚（うち東北 673枚）
- ◆調査主体：創価学会 学生部
- ◆調査校：217校（うち東北41校）

# 仮説

仮説1: 学生の意識の中で、「震災」や「復興」は大分遠のいている。

仮説2: それでも学生は“「復興」が思うように進んでいない”と捉えており、“「復興」に向けて何かしたい”と思っている。

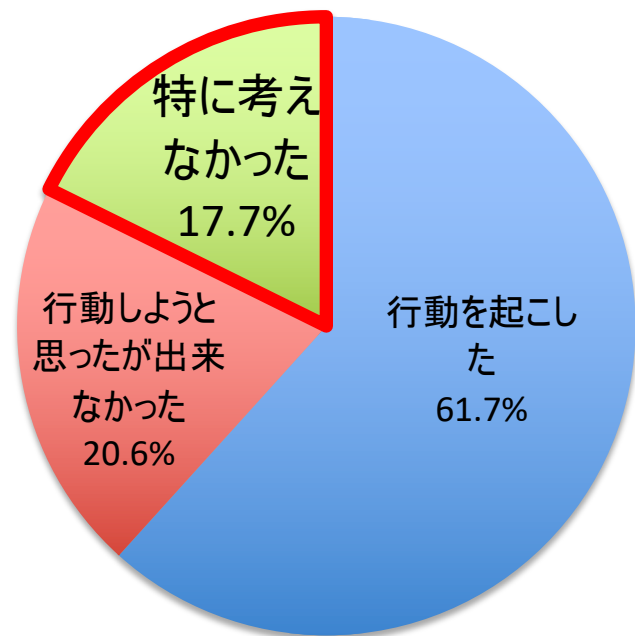
仮説3: 震災が学生に及ぼした影響(就業観、向学観の変化等)は、本人が意識無意識に関わらず現在も少なからず残っている。

## 【被災地の今と風化】

Q1) 日々の生活の中で、「東日本大震災」を意識するか？

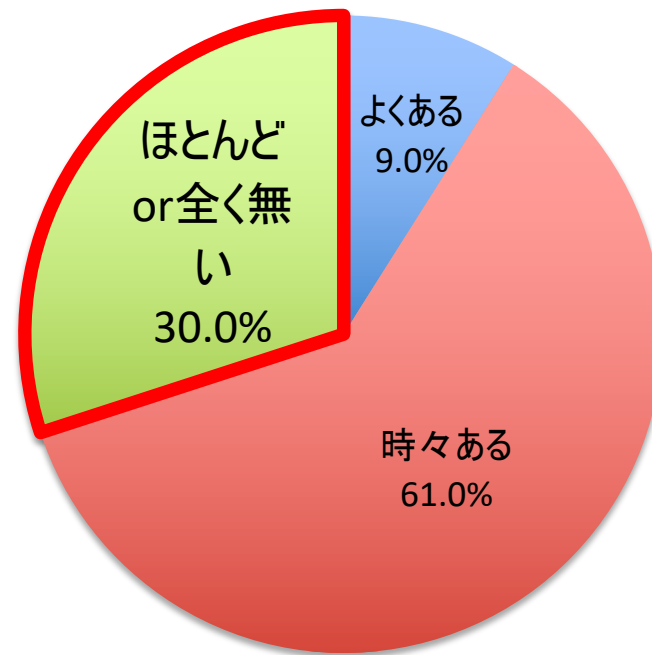
第1回のアンケートの際、「震災が起きてから被災地のために行動を起こさず、かつ『復興について特に考えなかった』と答えた学生は6人に1人程度だったが、今回のアンケートで、「震災を意識しない」と答えた学生は3割にもものぼったことから、風化の傾向が伺える。

震災時  
被災地の為に行動を起こしたか



第1回(2011年9月時点)

日常、東日本大震災を意識するか



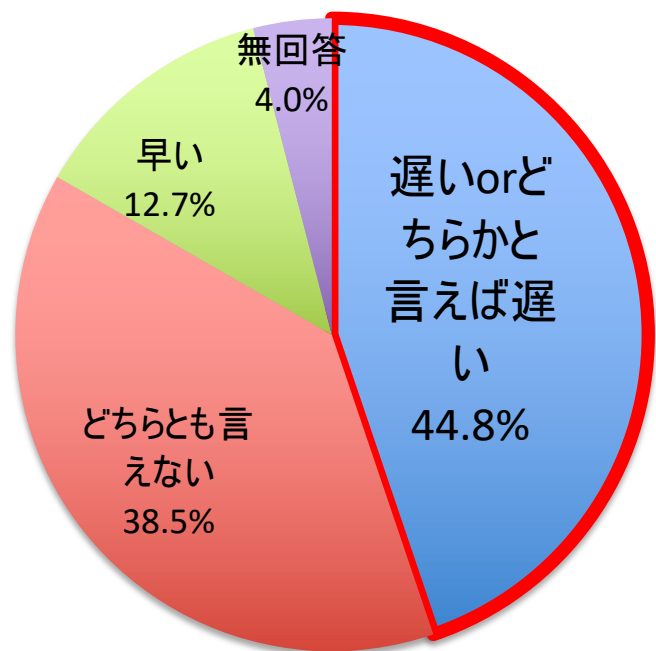
第3回(2014年2月時点)

## 【復興に向けて】

Q4) あなたは「復興の進捗」についてどう思いますか

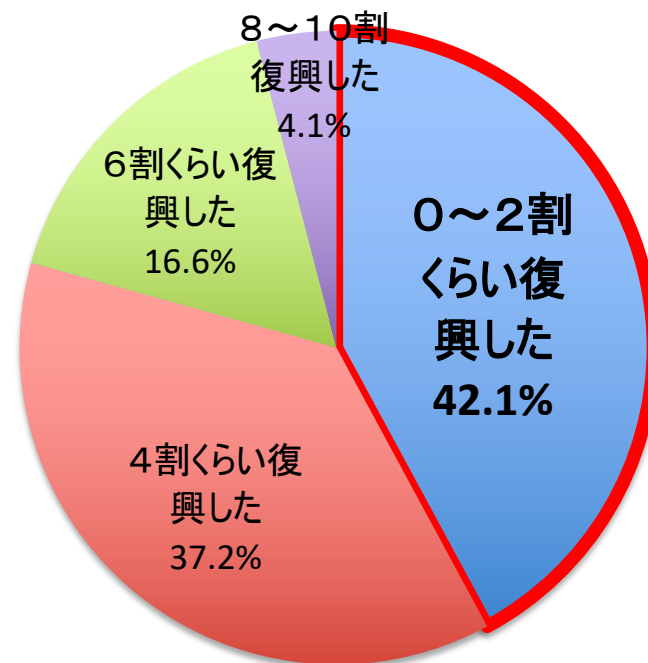
今回の調査で約4割の学生が「ほとんど復興していない」と認識していることが分かった。さらに、前回の復興のスピード感について聞いた項目と比較しても、ほぼその感覚は横ばいで推移していることが分かる。

### 復興の進捗について(スピード感)



第2回(2012年12月時点)

### 復興の進捗について(復興感)



第3回(2014年2月時点)

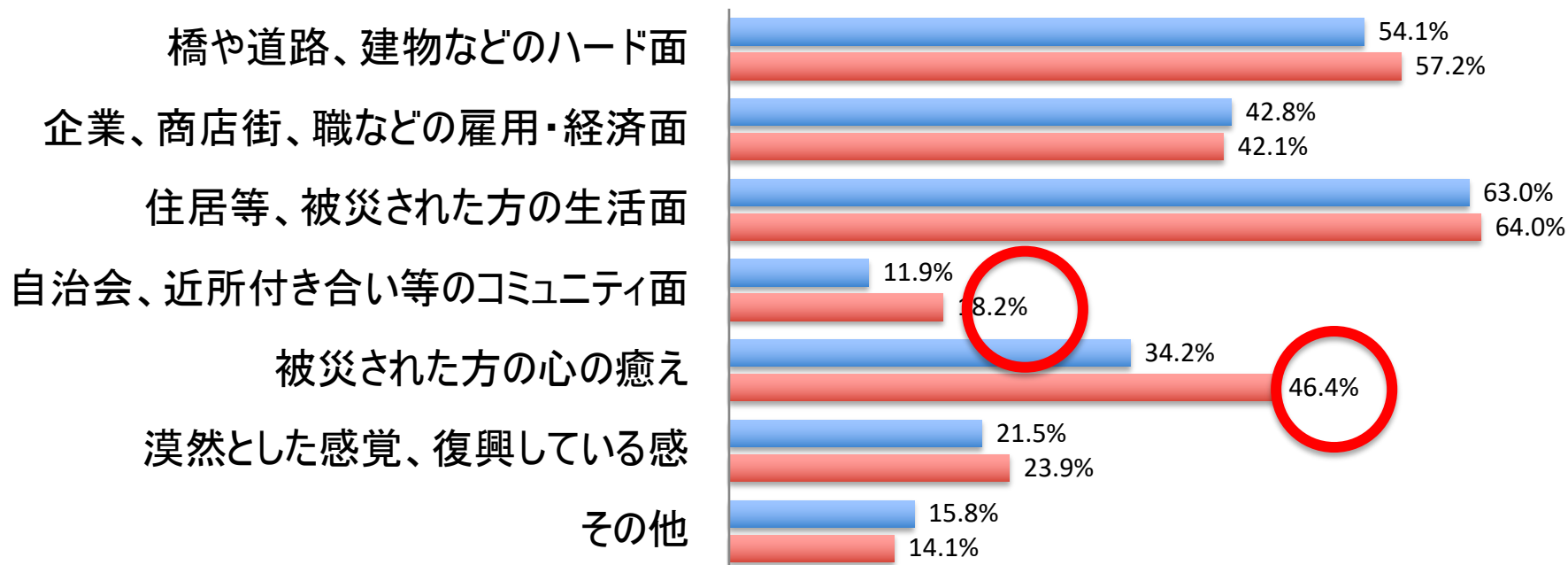
## 【復興に向けて】

### Q5)「復興の進捗」の軸として何をイメージするか？

首都圏の方が、「コミュニティ面」や「被災された方の心の癒え」により強く配慮していることが分かる。また、双方ともに「復興」としてイメージしていることが必ずしも一つではなく、様々な側面からのアプローチが必要であると考えていることが伺える。

## 「復興の進捗」の軸としてイメージしたもの

■ 東北 ■ 首都圏

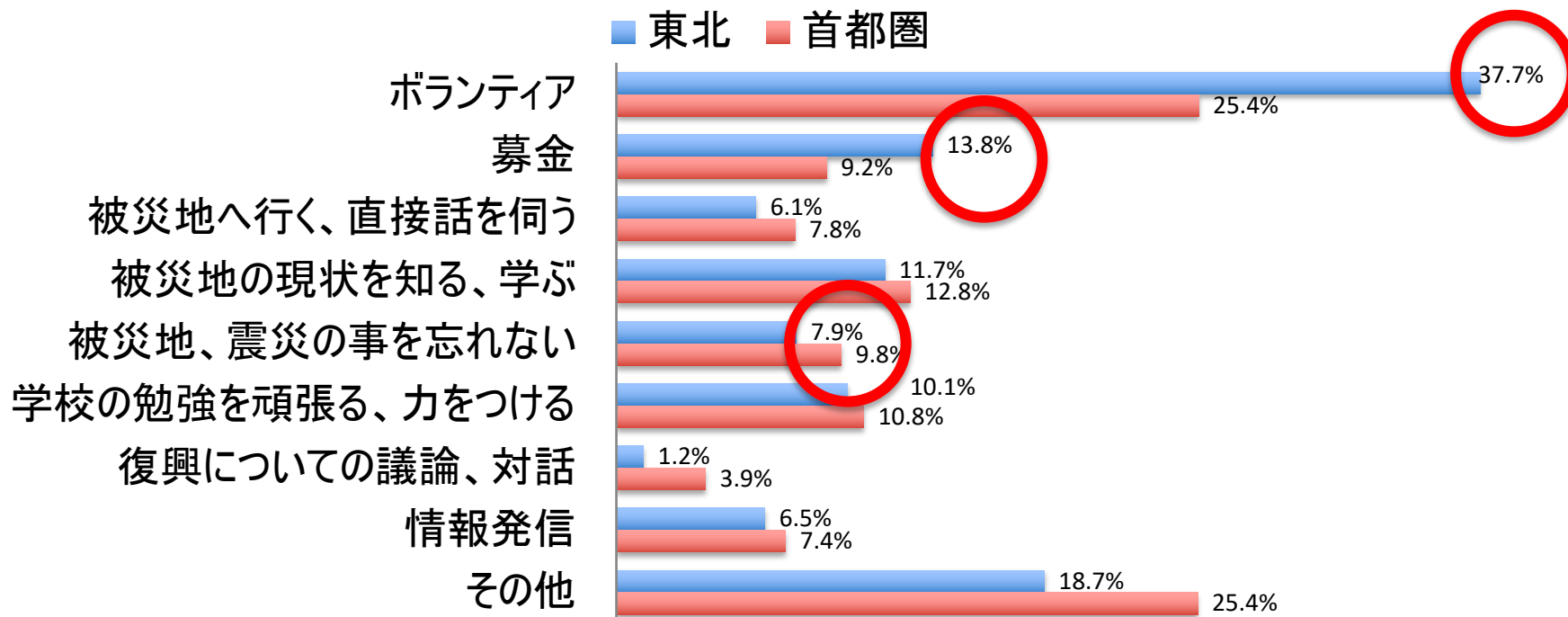


## 【復興に向けて】

### Q7) 復興のために、学生として何ができるか？

東北は「ボランティア」と答えた学生が約12%多い。また「募金」も多いことから、東北の学生の方が具体的な支援への意識が高いことが分かる。一方で、東京は「被災地の事を忘れない」等、前項の「被災者の心の癒え」に配慮している傾向が伺える。

### 復興のために学生として何ができるか



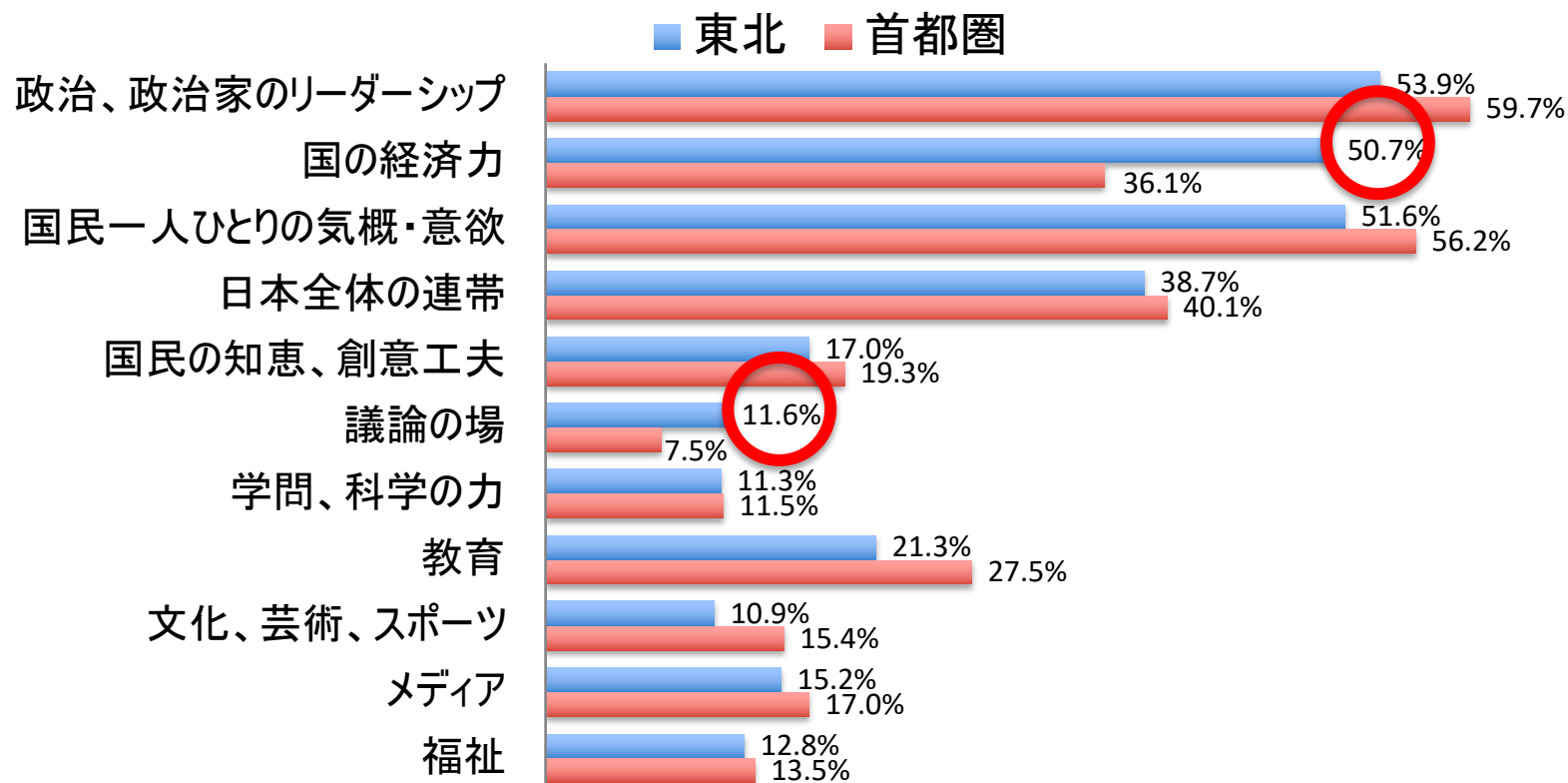
※「その他」の内容としては、「展示・イベント等による啓発」、「被災地産の物を買う」、「節電」、「目の前のひとりを励ます」、「祈る」などがあがった。また、このアンケートに回答する行為自体に「復興への思いを新たにした」との回答もあった。

## 【復興に向けて】

### Q6) 復興を推し進めるために必要な力とは何か

東北は首都圏に比べ、「国の経済力」が15%ほど多い。また、「政治」が最も多かったこと、「議論の場」を求めていることから、東北の学生が抱える復興予算等の使い方への不満・不信と、国の経済活性化による被災地経済の底上げへの期待が伺える。

### 復興を推し進める力



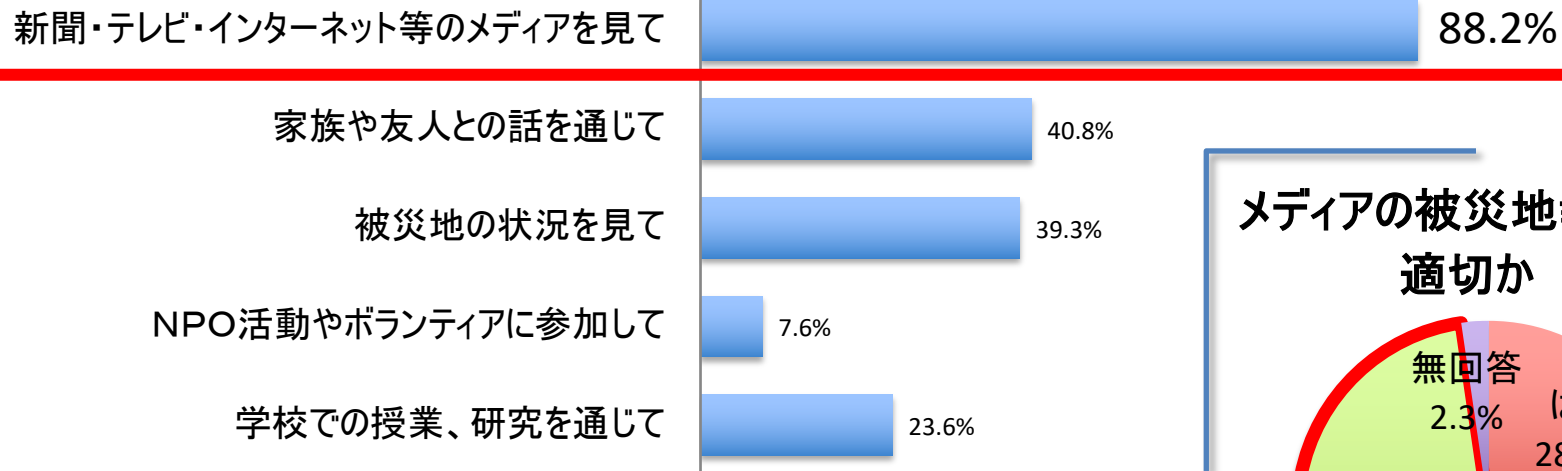


## 【被災地の今と風化】

### Q2)「東日本大震災」を意識するのはどんな時か？

前回7割の学生が「メディアは適切な報道を行っていない」と指摘していたが、今回の結果は、そのメディアが風化を止め、震災を考える機会として、大きな影響力を持っていることが伺える。

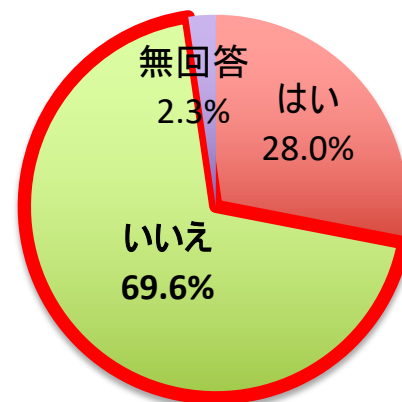
### 「東日本大震災」を意識するのはどんな時か



第3回 (2014年2月時点)



### メディアの被災地報道は適切か



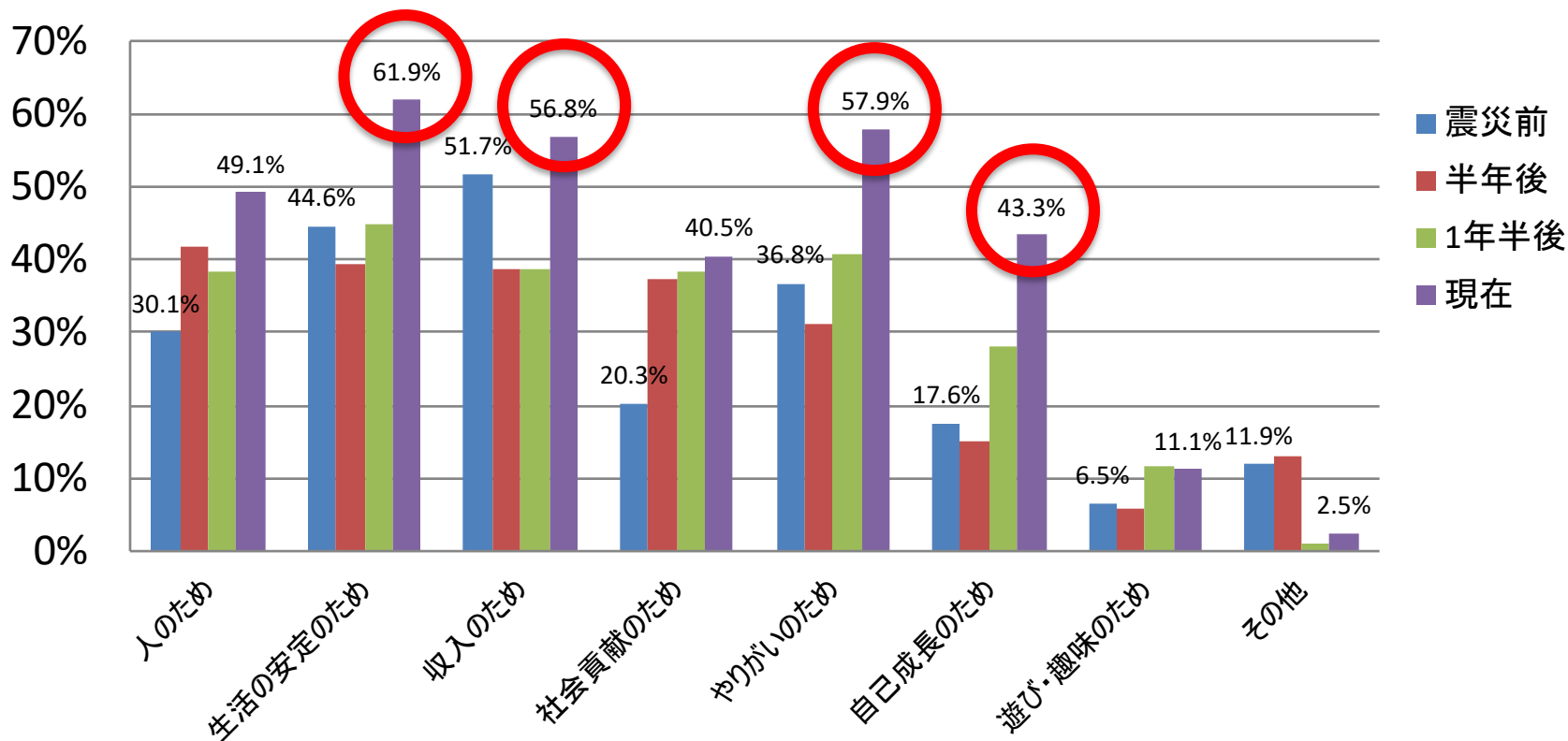
第2回 (2012年12月時点)

## 【被災地の今と風化】

### Q3) 震災前後での就業観の変化について

第1回、第2回調査と同じ内容を問うた。震災を機に「人のため」「社会貢献のため」との価値観を重視する傾向が現在にも生きている。逆に「収入のため」「やりがいのため」という考えが伸びてきているのは、3年という時間の経過を思わせる。

#### 就業観(何のために働くか。就職の基準。)



# 結 論

- ①震災への意識の薄れは着実に進んでいる。
- ②学生は「復興は進んでいない」と感じている一方で潜在的に“復興へ向け何かしたい”と考えている。
- ③震災が及ぼした影響は、学生の潜在的な意識として残っている。